



佐久の札所

第19番札所 醫王院 (いおういん)

南佐久郡南牧村海尻528



醫王院は、海尻山「醫王院」薬師寺と称し、宗派は天台宗で、本山は滋賀県大津市の比叡山延暦寺になります。信濃神光寺の末寺として、元禄二年（1668年）、性海阿闍梨しょうかいあじりによって開山されました。

信濃神光寺は、天長三年（826年）慈覚大師・円仁上人の創建と伝えられ、松原諏訪神社の別当寺で、多くの伽藍と五つの末寺をもつ佐久地方南部の一大霊場として人々の信仰を集めていました。しかし、信濃神光寺は、度重なる厄災や明治の法難により壊滅的な打撃を受けて、廃寺となりましたが、信濃神光寺の御本尊「薬師瑠璃光如来」と過去帳などは、醫王院へと移されることとなり、信濃神光寺の法灯は、唯一残った末寺である醫王院にて継承されております。

もくじ

支部長あいさつ	2
建築課長あいさつ	3
新年講演会	4
関ブロ・千葉大会に参加して	5
委員会活動について	6～8
佐久市総合防災訓練他	9～10
賛助会員の紹介	11

支部長あいさつ

公益社団法人 長野県建築士会佐久支部 支部長
高橋 三七人



会員の皆様には、日頃建築士会の活動にご理解ご協力頂きありがとうございます。

現在建築士会では様々な課題に取り組んでいます。東信ブロックでも今年初めての役員会を行います、幹事の皆様にご協力頂き今後の建築士会について考えていきたいと思えます。

また、役員に限らず会員の皆様からご意見を頂ければ幸いです。

今年は1月1日に能登半島地震による大きな災害があり、未だ多くの方が苦しんでいます。復興にはまだまだ多くの時間が必要と思われま。

また今年も各地で集中豪雨による災害がおきています。地震・水害と地球規模で何かが起きているのか、温暖化の影響か、そして建築士としてすべきこと、様々な講習会等を通じて自己研鑽を積み地域に貢献していく必要があると思えます。

今年の長野県総合防災訓練が10月小諸市で行われま、佐久支部も参加します。参加内容としては避難所の応急危険度判定の訓練を行い、災害時における準備をしていきたいと思えます。

佐久地域では2019年の台風19号による大きな災害がありました、水害に対する対応は難しくここ数年、連合会でもマニュアルを作るなど対応策がとられています。

佐久支部では11市町村と災害時における協定を締結しています、地震・水害等様々な災害がいつどこで起きてもおかしくない状況下で、支部としても協定に基づく活動が出来る体制づくりが急務であります。

会員の皆様のご協力が不可欠です、よろしく願いいたします。

来年2025年4月に大きな法改正があります、長野県建築士会では長野県からの委託業務で法改正にともなう長野県版マニュアルを作成します。省エネ基準適合の義務化など大きな法改正です、佐久地域では都市計画区域外の地域も多く、影響が心配されます。

建築士会としては、法改正に伴う講習会を開催するなど、会員の皆様のスキルアップ、そして業務や地域に対する影響をできるだけ少なくなるよう、県等と情報交換をしていけるようにしていきます。

今後、建築士会・建築業界が益々発展していくためには、皆様方のご協力が不可欠です。

よろしく願いいたします。



挿絵：「土屋晴男」画

「合成の誤謬」～部分最適は、全体最適に非ず～

長野県佐久建設事務所 建築課長
三好 由美子



佐久建設事務所建築課での勤務も、3年目となりました。

長野県建築士会佐久支部に所属する会員の皆様には、日頃から長野県の建築・住宅行政に多大なる御協力と御理解を賜り、誠にありがとうございます。今年度も、変わらぬご支援をお願い申し上げます。

最近、合成の誤謬※について考えることが増えました。「部分最適が、必ずしも全体最適にはならないのではないかと」。

合成の誤謬の例示として「企業が経営を健全化するために人件費を削減すると、個人消費が減少し、景気の低迷を長引かせる結果となること」と「デジタル大辞泉」に書かれているように、経済学で使われ始めた用語です。

最近では、経済学以外の文脈でも使われています。「個々では理にかなった行動でも、全体では合理的でない」という事例は、私たちの周りでも頻繁に発生しています。

想定事例1（公共交通）

集落を走るバスの運賃が値上がりしたため、自家用車を持っている住民は、交通費を節約しようと、自家用車で駅まで行くようになった。しかし、バス利用者が大幅に減少したため、料金が更に値上がりし、本数も減った。

想定事例2（業務カイゼン）

製品検査課の業務をカイゼンするため、製品試験を全数検査から抽出検査に変更したことで、残業を減らすことができた。しかし、不良品の写真がSNSに掲載されたことをきっかけに社会問題化し、消費者の買い控えから会社の業績が悪化した。

※ごうせいのごびゅう：個人や個々の企業がミクロの視点で合理的な行動をとった結果、社会全体では意図しない結果が生じること

出典：「デジタル大辞泉」（小学館）

想定事例3（土地利用）

自己所有地を最大限に活用するため、3階建ての店舗を敷地いっぱい建てたところ、周辺住民の来店者で賑わった。しかし、近隣にも同じような店舗がまばらに建築されるようになったため、閑静な住宅地が、用途混在で空間的ゆとりのない商業地になった（←これを防ぐための建築基準法第3章！）。

もっとも、建築確認申請は、その敷地の中で適法であるか、が問われます。隣接地との調和という視点は、原則としてありません。景観法に基づく届出もありますが、一定の形態制限の範囲では、自由に建てることができます。

また、建築主にとっての「理想の建築物」というものも、様々です。「和瓦に外壁は漆喰塗」にしたい人もいれば、「コンクリート打ち放し」の簡潔さを美しいと思う人もいます。「意匠より安さ」を最優先にする建築主もいますし、「街並みに調和した個性ある外観」に悩む建築士の方もいらっしゃいますよね。

そうやって創り出してきた“まち”を空から“鷹の目”で見たとときに、私たちが望んでいる姿になっているのでしょうか？ 好き勝手に建築しては、調和のとれた街並みや快適な環境を維持できません。「きまりごと」の遵守が、極めて重要だと実感する毎日です。

個々の目標だけでなく、全体の目的に沿って行動することは、なかなか難しく、どんな状況にも共通する最適解は、存在しないでしょう。

けれど、自分にとって最高の結果にならなくても、「自分だけ」でなく、「あなたも」の視点を持つことで、少しだけ全体最適に近づいていけるのでは、とも思うのです。

末筆になりますが、長野県建築士会佐久支部の益々の御発展と、会員各位の更なる御活躍と御多幸を祈念申し上げ、会報「ちくま」第71号発刊の御挨拶いたします。

新年講演会「カーリング ミラノ五輪に向かったの挑戦」

両川 正



講師：山口 剛史 氏

略歴：1984年11月21日 生まれ、北海道空知郡南富良野町出身。

S C軽井沢クラブ所属、ポジションはスキップ。身長174cm、体重75kg、血液型B型。2018年平昌オリンピックカーリング競技男子日本代表として8位入賞、日本男子は長野県オリンピック以来の出場。

この度の投稿は「あなたが適任だろう！」と、ご指名を頂き僣越ながら執筆をさせて頂いております。

子育て時期の我が家の食卓の会話では、記憶の上で10年も前から「山ちゃん！」と毎日の様に話題に上る存在でした。もちろん、その話題に上る「山ちゃん」は山口選手で、我が家のカーリングをしている2人の子供は「山ちゃん」があこがれの存在で、話題に上るのもその裏返しだと思います。

実は私は子供の活動に非協力的な親でありまして、そんな訳で山口選手はいつも我が家の子供達を通して、私にも身近な存在でありましたが、初めてお会いしたのがこの講演会でした。そんな流れで私も子供達と並び山口選手とはとても親しい気分しておりますが、子供達からの情報にはいささかバイアスがありまして、その情報で作られた私の中では山口選手は「筋肉山ちゃん！」という印象が植え付けられています。

今回の講演を通して知った内容では、山口選手はカーリングだけにあらずに、中学時代のカヌー競技、高

校ではラグビー部であった事を知り、子供たちの情報からの「筋肉山ちゃん！」ではなく「バランス山ちゃん！」なんだと感じました。(オリンピックを目指しているアスリートに対して、一般人が評価して、大変失礼なお話ではありますが、)

スキップ(司令塔)との位置の選手としては、その他、勝ち上がって行くには会場のアイス状況にチーム全体が早急に適合する、チーム内での個々のメンタル面のウエイトも大きく、それを自身のコンディションや競技以外に、まとめて行くという労力は並大抵ではないと察しているつもりです。

これは、カーリングだけに留まらず会社の仲間や、建築現場に通じる場所が多く、とても参考になる講演会でした。

ミラノオリンピックで華やかな舞台に立ち、ご健闘される姿を思い浮かべて、陰ながら応援を申し上げます。



令和6年度 関東甲信越建築士会ブロック会青年建築士協議会 千葉大会 エクスカーションに参加して

佐藤 成暁

飯田 智

昨年の新潟大会では、県代表の発表者として参加したのを思いだした初日が終わり、この大会に参加できるのもあと数回という年齢にもなったので、2日目のエクスカーションに参加しました。

エクスカーションとは開催県が企画した、建築のご当地ツアーなるもので、そのツアーの中に近年の少子化で学校統廃合などによる空き校舎の活用事例の見学がありました。

1例目の見学地は「道の駅 保田小学校」。

空き校舎の近くに高速ICができた事で、廃校になった保田小学校の名を残し、更に訪れた人に、懐かしさを感じられる小学校感に特化することで、他にはない道の駅として生まれ変わる。

朝はチャイムが鳴りラジオ体操・給食メニューが食べられる。

教室にベッド等を置き宿泊施設として利用・格安で宿泊できる。

保田小学校グッズがあり大人も子供も買ってしまおう・お土産にもなる。

学校の面影を残しながらも新しいデザインを取り入れた施設にリノベーションされており道の駅なのに楽しめる・子供の遊ぶ施設・施設内に食事処が多い。

言葉では伝わらないので是非行って見てほしいです。

人口6700人の鋸南町にある道の駅で7億の売り上げだそうです。

道の駅は私にとってのトレンドワードだったので、とても刺激を受けた見学でした。

今大会中に多種多様な活動に触れる事ができ、建築士として一人の存在として自分も何かしたいなど改めて思うことができました。

有意義な2日間となり、参加させていただいた佐久支部に感謝いたします。ありがとうございました。



今年の日開ブロ大会（本来の名前はタイトルにある名前ですが青年委員の間では、長いタイトル覚えきれないので「日開ブロ大会」で通っています）は、千葉での開催でした。

某テーマパーク夢の国には幾度かお邪魔しましたが、千葉の街に伺うのは初めてです。

田舎暮らしの自分にとって、やはりビルの谷間を抜けて走る運転は勇気のいる事です。同じ青年委員の佐藤君と、慣れないドライブを楽しみながら、会場に到着でした。

今年の日開ブロ大会・長野県代表は安曇野支部の「未来へ継ぐ、積木」でした。安曇野支部の応援も兼ねて、参加させて頂きました。

今年の日開10都県の代表の共通のテーマ・課題は「士会の認知、会員拡大、活動費や運営費の獲得、未来の建築士の発掘、育成」でした。建築士会の課題はどの県も同じであると感じた発表でした。

その中でも私が心を惹かれた発表が、茨城県の発表でした。家具の計画・作図・製作までを小学生と会員とで行っていく活動です。地域の教育委員会や学校関係者に建築士会を知ってもらい、将来の建築士を育て、さらにはその事業を、地域を超えて別の学校などにも広げていこうという長期スパンの目標に立った発表だったからです。その成果が出るのは、しばらく先になるそうですが、仲間同士協力して未来を見据えて活動している姿に心惹かれました。

将来に向けての種まき・今の建築士会に必要な事だと感じます。

発表を通じて、ワクワクする建築士会を考えたいという1日となりました。参加させていただいた皆様ありがとうございました。



令和6年度

新年度の活動について

総務企画委員長 上原 啓二

昨年度より引続きまして総務企画委員長を務めさせていただくことになりました、御代田・軽井沢地区の上原と申します。支部長をはじめ、副支部長、委員、事務局の皆様と協力しながら本年度も事業を進めてまいりますので、皆様のご協力をお願いいたします。

さて、本年度の総務企画委員会の事業についてですが、親睦ゴルフ大会、緊急災害時連絡網の整備、新年講演会の実施等が主なものとなります。三団体合同研修旅行は事務所協会の担当で10月の11日、12日に福井方面で計画されています。

親睦ゴルフ大会ですが、7月に東信ブロックのコンペが上小地区の担当で浅間高原ゴルフクラブにて開催されました。佐久支部からも大勢ご参加いただき、交流を深めることができました。9月4日には三団体のコンペを佐久リゾートゴルフ倶楽部にて計画しています。また、9月20日には県のコンペが開催予定ですので、大勢の皆様のご参加をお待ちしております。

緊急災害時連絡網は、災害時に県・市町村との協定に基づいた被災建築物応急危険度判定を実施する際に重要な連絡網ですので、実情に合わせた更新を行っています。連絡網の実施訓練も予定しておりますので、その際にご協力をお願いいたします。また、本年度は小諸市にて長野県の総合防災訓練が開催されます。

年明けには例年通り、新年講演会を予定しています。昨年度はカーリング、SC軽井沢クラブの山口様に講演いただき大変好評でした。本年度の講演の内容については今後の委員会で検討していきます。良い案があればご提案いただくと助かります。

何かと不慣れな部分もあり、ご迷惑をおかけすることもあるかと思いますが本年度もよろしくお願いいたします。



新年講演会講師 SC軽井沢クラブ 山口選手

令和6年度

教育事業委員会について

教育事業委員長 小林 千恵

昨年度は会員の皆様にご協力をいただきまして講習会や見学会を行うことが出来ました。ありがとうございました。本年度も引き続き委員長を務めさせていただきます。どうぞよろしくお願い致します。

昨年よりようやくアフターコロナとして多くの活動が出来るようになってまいりました。私は軽井沢出身なのですが、コロナ禍前の2019年よりインバウンドのアウトレット売上高が今年になり増えているようです。しかしながら最近またコロナが流行しているようですので、講習会や見学会を計画した際には注意を払っていききたいと思います。

本年度も見学会や講習会を計画していきたいと思っており模索しているところでございます。来年度には大きな法改正が控えておりますので法改正の講習会等も計画していければと考えております。

このような事を学びたい、こういう講習会を開催して欲しいなど講習会におけることや、この建物を見学したいという要望や、今建設中の建物や完成した建物の見学をさせていただけることがありましたら是非教育事業委員にお声がけいただければと思います。本委員会は会員の皆様のご協力がありませんと成り立ちませんのでどうぞお力をお借りできましたらと思います。



曳家見学会資料より

令和6年度

令和6年度の委員会活動について

地域貢献委員会 小泉 正樹

地域貢献委員会では今年も恒例のウッドクラフトを10月13日に計画しています。近年新型コロナウイルスの影響からリモートでの開催もあり日曜日1日のみですが今年も昨年同様参加者と対面での通常開催です。

また今年は一社)長野県建築士事務所協会佐久支部の「建築士事務所キャンペーン」との共催での開催を予定しています。

既に十数年以上継続している委員会でも主になるイベントですが、先日事務局の萩原さんより嬉しいお便りがありましたのでこの場で会員の皆さんにもご紹介させていただきます。

(以下 萩原さんからのメールより)

一つ、嬉しいご報告を…私の友人の娘さんが建築士を目指し、現在千葉大学で建築を学んでいます。ご両親ともに公務員で、親族にも建築関係の方は誰も居りません。なぜ建築の道に進もうとしたのか聞いてみたところ、小学生の時にウッドクラフトに参加して、建築士会の皆さんに親切に教えてもらったのが理由との事。その時の木のぬくもりと、物づくりの楽しさを知ったのが建築に興味を持つきっかけだと言っていました。今でもその時に作った椅子は、お気に入りのグッズ置きとして大切に使っているそうです。皆さんの活動が、繋がっていているんだと感じ、とても嬉しくなりました！

私自身も参加されたお子さんが、「ウッドクラフト」での体験からまさかその後このような進路を選択されるとは思ってもみなかったのが、驚くと共に委員会で長年続けてきた活動が単なるイベントで終わらなかった事に大変嬉しく今後の活動の励みになります。

委員会のもう一つの活動「防災マップ」の整備については長らくお待たせしてしまいましたが、昨年4市町の避難施設変更もこの5月に完了し、近日中に関係者宛PDFデータを配布予定です。なお今後も各市町村避難施設の変更に伴い総務委員会からの要請を受けてマップ修正作業は継続していきます。



令和6年度

佐久支部のホームページ

情報広報委員長 両川 正

今年の夏は潤沢に暑い日が続き、佐久平地方でも畑作や稲作が順調の事と思います。為替相場や株価は世界的に不安定で、投資家の間では一喜一憂を繰り返している様ですが、生物の一個体としては、食糧が潤沢に生産される暑い夏は喜ばしい事です。そんな中、臭覚と記憶の領域は面白い相関関係にあり、産地直売所で買って来た佐久の桃が家の中に芳香を漂わせ、この季節ならではの、ご先祖様に向き合う切っ掛けを与えてもらっていたりします。

生業もご多忙な中、日頃より、情報広報委員会の活動に、原稿執筆や写真の提供のご協力を頂きまして、関係者の皆様にはこの紙面をお借りして感謝申し上げます。

さて、コロナ禍の前から進めていた佐久支部のホームページのリニューアルは、長い時間が掛かっておりましたが、ようやくホームページも刷新されました。Wordpressを使いデザインの外枠の更新が済んで、順次新しい情報を追加して行く予定です。委員会の中ではホームページ更新の説明を制作会社より受けています。軽井沢・東信エリアでの完成見学会等のイベントをお知らせできる住宅ポータルサイトとリンクを考えておりますのでご利用ください。自身のホームページに活用したい等、ご興味があるようでしたらご参加下さい。

季節の変わり目、体調を崩さぬ様に御自愛下さい。



醫王院境内にて、表紙撮影会

令和6年度

地域まちづくり委員会の活動について

地域まちづくり委員長 新津 輝秋

昨年度は、活動もできず名ばかりの地域まちづくり委員会にしまいました委員長の新津輝秋です。市町村からの依頼があった際に実働ができるための委員会として、組織された委員会であると伺っていたのですが実際、市町村から依頼を受けることもなく活動の実績がないのが本委員会の実情となっております。

正直申し上げますと、このままの状態は委員会としてはあまり望ましくないと思っておりましたところ、私がかがいがい知れないうちに連絡員として名を連ねられておりました本会の既存住宅ストック部会において、既存住宅状況調査（インスペクション）制度の周知のチラシを各市町村庁舎においてもらい、各市町村が抱えている既存住宅や空き家に対する課題の聞き取り調査を行ってほしいと依頼がありました。

せっかくですので、インスペクション制度の周知を兼ねて各市町村の空き家や移住対策に関する窓口との接点があるかと思ひ、この調査、周知についての聞き取りを本委員会にて行うこととしました。佐久支部管内には、佐久市、小諸市、立科町、御代田町、軽井沢町、佐久穂町、小海町、南牧村、川上村、南牧村、北相木村、南牧村の12市町村がありますが、聞き取り調査の中でも、空き家に対する危機感やインスペクション制度に関する興味等、いい反応が得られました。（村内の空き家について、インスペクションを活用したいので来年度の村の予算にインスペクションのための予算を計上したいという自治体もありました。）

又、来年度の建築基準法の改正について、都市計画区域外にも確認申請の提出が求められることについて、手続きや地元の大工さんなどへの周知について不安を抱えている自治体があることも確認できました。今後、こう言った自治体さんへの情報提供や助言を行うことも建築士会として必要になってくるのではないかと感じた次第です。

自治体からの依頼を待つだけでなく、微力ながらもこちらからアプローチできる委員会であれるよう努めたいと思います。

令和6年度

青年女性委員会の活動について

青年女性委員長 柳澤 洋介

昨年度に続き、本年度も青年女性委員長を務めさせていただき柳澤です。本年度もよろしくお願ひいたします。

本年度も、佐久地域の若手建築士の発掘と委員会活動を共にしていくメンバーを増やしていきたいと考えています。このままでいくと来年度からの委員会活動もままならない状況になってしまっています。みな様のご協力をお願いいたします。

また、本年度は私の地元中込エリアでの活動をおこなって行きたいと考えています。

中込駅前に広がる中込商店街では約35年前に行われた区画整理事業によって先進的なまちづくりが行われ、当時は佐久の上海と言われるほどの活気がありましたが、店主の高齢化、後継者不足などにより閉店してしまった店舗も多く、空洞化が進んでいる状況です。

そんな中、2022年に中込商店街の道路の整備や公民連携による既存施設の改修等を図ることで、機能集約・ネットワーク型まちづくりを実践し、まちなかの活力を取り戻し、魅力あるまちづくりを目指すため、「中込地区再整備基本構想」が策定され、本年度中にサングリモの1・2階の配置変更とサングリモ前に広がる歩行者専用道路の改修が行われます。人が滞留できる空間を作ることで空き店舗に新しいお店が入り、魅力のあるまちとなることを目指しています。青年女性委員会としても、官民連携のまちづくりに関わるような活動を行っていきたくと考えています。

歩行者専用道路に人工芝を敷き、テントを設けて家具を配置することで人が滞留する場所になるのかを試行するための社会実験が行われました。



歩行者専用道路に人工芝を敷き、テントを設けて家具を配置することで人が滞留する場所になるのかを試行するための社会実験が行われました。

佐久市総合防災訓練及び能登半島地震の応急危険度判定の状況について

佐久支部 今井 直和

6月29日(土)に佐久市総合防災訓練が行われました。建築士会としましては佐久市内、各所にある一次避難所の被災建築物応急危険度判定を行いました。実際に近いかたちで被災建築物応急危険判定士が集合し、県、市の職員の方と連絡を取り合い班ごと分かれて判定作業を行い判定ステッカーを貼りました。判定士としましてはこのような訓練に参加させて頂きとても勉強となり、問題点も共有が出来たので今後に活かせるかと思えます。



下げ振りによる建物の傾き調査



外壁のクラックゲージによる計測



建物内、下げ振りによる建物の傾き調査



調査終了後の判定ステッカー

又、私は令和6年1月1日午後4時10分能登半島を震源とするマグニチュード7.6、最大震度7を観測して多くの建物が損壊し、多数の方が犠牲となった石川県に建築物の応急危険度判定に行きました。

被害の特徴として、木造で屋根が瓦葺きの建物の倒壊が多く見受けられました。倒壊した建物が道路を塞ぎ、避難・救助時に支障になった建物も多くありました。また、長野県庁の方々と建築士会佐久支部で担当した輪島市内では建物の形は残っているものの大きく傾いた中高層ビル等もありました。そんな中、判定作業を行なっていくと被災された方々

からの質問等があり、建築士（応急危険度判定士）は社会的な役目を期待されているのではないのかと痛感させられました。

今回の災害を教訓に建築士会での訓練等を行い準備をして行かなければならないと思います。

これからの日本はどこでいつ災害が起きるかわかりません。

自分自身そして家族を災害から守る為にも日頃から防災を意識して非常食の準備や地域の避難所の確認をしておくのも重要だと思いました。



1階が崩れ、2階が車にのしかかった家。1階部分の破壊が多く見られました。



倒れて砕け散った石の鳥居が、地震の揺れの大きさを物語っています。



周囲地盤が沈んだ宿泊させて頂いた、輪島市役所の玄関近く



土砂崩れで押しつぶされた家に判定用紙を貼る判定士。左側の木の下には家が埋まってしまっている。



判定結果は各チームに貸与されたタブレットに入力しました。



周辺道路の沈下により、橋との段差が発生。碎石で仮補修し通行が可能になっていました。

賛助会員の紹介

株式会社 木下組

弊社は、大正11年4月に創業し昭和23年4月に法人化され創業から100年余となりますが、途中平成16年に組織変更してからは20年余となりました。

設立当時は佐久、高崎そして新潟県新津に拠点を置き、国鉄から新幹線や在来線の工事、東京電力から発電所や導水路の工事等を受注し事業展開して参りましたが、時代の流れで現在は佐久だけとなり、公共工事の施工を中心に地元へ根ざした企業として営業しております。

又、堅実経営をモットーに、社是は「誠実」社訓は「協調」「奉仕」とし、何事にも誠心誠意取組み社員が協力し合い社会のために奉仕する「いい会社づくり」に社員一丸となって邁進しております。

最近の建設業においては、人材確保と技術の伝承が喫緊の課題であり、ICTによる生産性の向上や完全週休2日制の実施等が求められており、弊社でも社員の高年齢化対策として積極的な採用や退職者防止に取り組んでいます。

又、弊社独自で毎月行っているファミリーデーでは、定時に退社し会社からのプレゼントを持って帰ることにより、家族との時間を大切にワークライフバランスの推進や時間外労働の削減等を行い、健康で社員が働き甲斐や未来に向けて希望の持てる職場環境の創造に取り組んでいます。

弊社ではISO9001・45001、BCP、E A21そしてSDGs等の認証を受けそれぞれの分野で活動しております。

設計を伴う住宅建築等は年に数件ですが、今後も貴会の賛助会員として設計業務が行える体制は維持して参りますので今後とも変わらぬご支援とご指導をお願い申し上げます。

最後になりましたが、貴会の益々のご隆盛と会員の皆様のご健勝を心よりご祈念申し上げます。



賛助会員の紹介

TOTO株式会社

長野県建築士会佐久支部会員の皆さまには、平素より格別のお引き立てを頂き、厚く御礼申し上げます。

弊社は、大正6（1917）年、九州・小倉の地で日本初の衛生陶器の製造会社として設立しました。「健康で文化的な生活を提供したい」という創立者の信念を受け継ぎ、常に「良品の供給」と「お客様の満足」を第一に考え、「奉仕の精神」を貫き、社会や地域環境に貢献する存在であり続ける事を目指しております。

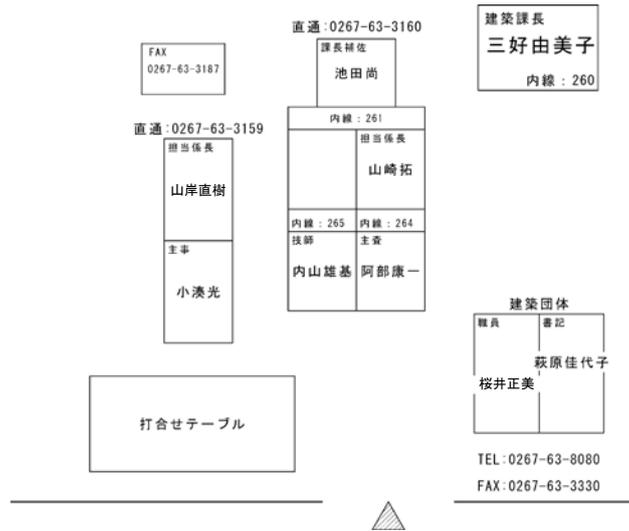
2021年4月、長期視点で実現したい暮らしや社会・環境を明確化した共通価値創造戦略「TOTO WIL L2030」を策定しました。TOTOグループは2050年カーボンニュートラルで持続可能な社会の実現を、またすべての人に快適で健康な暮らしをご提供することを目指し、社会課題、環境課題を解決しながら経済的成長を実現していきます。そのために、取り組むべき重要課題であるマテリアリティ「きれいと快適・健康」「環境」「人とのつながり」を全社一丸で極め、サステナビリティ経営に取り組んでいます。

3つのテーマの1つ「環境」では、目指す姿として「限りある水資源を守り、未来へつなぐ」「地球との共生へ、温暖化対策に取り組む」「地域社会とともに、持続敵発展を目指す」を設定し、「節水商品の普及」や「CO2排出量削減」「地域に根付いた社会貢献活動」に取り組んでいます。

今年8月にはシステムバスルーム「SYNLA（シンラ）」がフルモデルチェンジし、上質感と心地よさを進化させたアイテムを搭載。本商品を含む「きれいと快適・健康」「環境」を両立するTOTOらしい商品を「サステナブルプロダクト」と位置付け、これらの商品を普及させることによって、地球環境に配慮した、豊かで快適な社会の実現に貢献していきます。



佐久建設事務所 建築課 配置図



***** ●編集後記● *****

会報表紙（佐久の札所巡り）の撮影のため海尻山醫王院を訪れたときに、道すがら「北国の春」の歌碑を見つけた。歌碑は、作詞家いではく誕生の地（南佐久郡南牧村海尻、海尻基幹集落センター入口の国道沿い）に建てられている。

「北国の春」は、1977年に発売されてミリオンセラーになった千昌夫歌唱、いではく作詞、遠藤実作曲、のシングルレコードである。誰もが知っている懐かしい歌詞とメロディーを、自然に口ずさむことのできる昭和歌謡の名曲だ。くたびれたトレンチコートに中折れ帽、古いトランク、ゴム長靴、首に巻いた手拭い…「北国の春」を歌う千昌夫の演出は演歌そのものだった。

東京に住む息子が生れ故郷（佐久地域）のおふくろと風景を思い浮かべる内容の歌詞は親近感があり、あらためて「北国の春」を聴いてみた。

”季節が都会ではわからないだろうと 届いたおふ

くろの小さな包み”と歌詞にあるが、小さな包みの中身は何か、ずっと気になっていた。調べてみると、山菜をイメージしていたと本人が明かしている。サビの”あの故郷へ帰ろかな 帰ろかな”は、かつて生まれ故郷を離れて都会に暮らしていたときに身に沁みて感じるフレーズだった。 M.O



会報『ちくま』第71号 2024/9
 発行者：(公社) 長野県建築士会 佐久支部
 情報広報委員会
 事務局：〒385-8533 佐久市跡部65-1
 佐久建設事務所内
 TEL 0267-63-8080
 FAX 0267-63-3330
 E-mail: ken8080@seagreen.ocn.ne.jp
 支部HP http://www.aba-saku.com/
 印刷：ヨダ印刷サービス株式会社
 TEL 0267-22-3330



醫王院観音堂
